特　集　ーヘルン没後100年とヘルン文庫ー

没後100年記念事業を終えて

富山国際大学教授　高成玲子（たかなり れいこ）

2004年富山のラフカディオ・ハーン没後100年記念事業は多くの方々のご協力を得て，成功裏に終了することが出来ました。この場を借りて関係各方面に心からお礼を申し上げます。一昨年暮，旧制富山高等学校同窓会，富山大学人文学部同窓会，同理学部同窓会の有志諸氏，富山大学附属図書館，馬場公園の歴史と自然を愛する会，それに富山八雲会とで実行委員会を立ち上げたころは，正直申し上げてどこまで出来るか不安でした。しかし途中から北日本新聞社が創立120周年記念事業の一つとして，没後100年記念事業の主催者に加わってくださったこと，北日本放送からパーシバル・ローエルの写真をお借りできたこと，富山大学附属図書館ヘルン文庫の資料の学外展示の許可が得られたこと，池田記念美術館，松江の小泉八雲記念館の協力があったこと，富山大学，富山国際大学ほか県内外諸機関からさまざまな応援をいただいたこと，しかもインテックをはじめ同窓会やさまざまな個人の方々から資金面で大きなサポートを受けることが出来たことによって，節目の年に相応しい内容の行事を行うことが出来たことをご報告いたします。

先ず，北日本新聞ギャラリーで10月17日から８日間にわたって，引き続いて立山カルデラ博物館で11月13日から３週間にわたって開催した「ハーンとローエル展」では，共に富山に関係のあるラフカディオ・ハーンとパーシバル・ローエルに焦点を当て，富山・北陸の視点から見えてくるものを探ろうとしました。新潟県大和町の池田記念美術館に保管されている「ローエルからハーンに宛てた３通の手紙」を両者の間に据えて，パネル展示を行ったのです。また，この展示でずっと気になっていたある試みを実行しました。

池田記念美術館には，全編にわたって非常に多くの校正が加えられた『日本― 一つの解明』の初校原稿が残されています。本が完成した後，出版社から小泉家に返されたものですが，美しい帯地で装丁された三冊の和綴じ本の形で帙に収められており，遺族によっていかに大切にされてきたかをうかがい知ることができるものです。さらに同館には一葉の第二校断片も保存されていまして，何時の頃からか，ヘルン文庫の手書き原稿を目にするたびに，この手書き原稿（勿論，写真で）と出版社から返送されてきた初校，二校と実際に本になった『日本― 一つの解明』初版本を比較検討できたら，ハーンの推敲の跡をたどれるのでは

「ハーンとローエル展」案内板

ないか，もしそれが出来たらどんなにいいだろうと思うようになりました。しかし，同時にそれはとても私などが手に負えるような仕事ではないとも考えていました。それが今回，思いがけずその一部を一箇所に並べて展示することが出来たのです。

また，「世代を超えて語り継ぎたい八雲の心」作品募集には，思いがけず幅広い年齢層から多くの応募があり，県民の関心の高さに驚きました。恐らくまったく関心のない人もいるけれども，一方で熱烈な八雲ファンも少なくないということなのでしょう。

グランプリに輝いたのは米澤たもつ氏の「全編貫く“常民観”読み継がれる八雲文学」です。エッセイ，評論，創作，詩•短詩の各部門賞から佳作，入選まで受賞作品を順次，富山八雲会のホームページに掲載していますので是非一度ご覧ください。

10月23日アイルランド駐日大使ポドリグ・マーフィ閣下を迎えて開催した記念行事では，ラフカディオ・ハーンの曾孫小泉凡氏にご講演をお願いしました。ハーンの心を出来るだけ深く正確に伝えようとされるあの真摯な姿勢には心打たれるものがあります。ハーンは良き語り部をもったと思います。もう一つ心に残ったのは，南日恒太郎の孫松井玖美氏，小泉氏，それに富山国際大学で私のゼミ生であった平井絢子さんによるフォーラムです。ヘルンの愛蔵書についての話の中で，松井氏は以下のような意味のことをおっしゃったのです。「本とはただ情報を伝えるだけのものではない。本を開くときに立ち上がってくる目に見えない何か，本というものが持っている雰囲気，その本が置かれた佇まい，空気そのものまでが一つの意味を持って迫ってくる。子供の頃，祖父の書斎へ行くと，すでに亡くなっていたはずの祖父の存在が強くリアリティを持って感じられた。•••ライブラリーというものの何か迫ってくる感じ。外国で，例えばプラハのお城の中のライブラリとか•••本が持つ意味とはそうしたものなのではないだろうか。」それを受けて小泉氏が「初めてヘルン文庫を訪れて書き込みを見たとき，それからハーンの白髪らしきものが密かに挟まっていたのを見てしまったとき，やはりそういう時にここへ来なくては分からない，これまで思っていた以上の重みを実感した」とおっしゃった。フォーラムで交わされた一言一言に，この情報化時代にヘルン文庫が持つ本当の意味を再認識させられたような気がして，胸が熱くなるのを覚えました。

そのような数々の感動のうちに一日が終ろうとしていた矢先，最後に忘れられない出来事が起こったのです。記念の諸行事が終って，会場の北日本新聞ホールを出ようとしたときでした。足元がなんだか覚束ない，次の瞬間地震だと気がつきました。時計を見ると6時少し前。私はレセプションの会場の全日空ホテルへと急ぎました。レセプションが始まる直前，突然，ワゴンに並べられたグラスが触れ合っていっせいにガチャガチャと音をたて，天井のシャンデリアが揺れ，柱がみしみしと音をたてたのです。「かなり大きいな」と誰もが思ったはずです。それが中越地震の始まりでしたが，そのことを知ったのは翌日になってからでした。新潟県南魚沼郡大和町の池田記念美術館はまさに今回の震源地と言ってもよい場所に位置していました。幸い美術館関係者に心配したほど大きな被害はなかったと分かってほっとしたのですが，今回遠隔地から参加してくださった方全員が，帰宅するのに苦労されたとうかがっています。

それから2ヵ月後のインドネシア・プーケット大津波は未だ記憶に新しいところです。各国首脳が集まった会議で，シンガポールのリー・シェンロン首相が小泉首相に「稲むらの火」の話について質問されたそうです。あの大津波でハーンの「生神さま」を翻案した「稲むらの火」が再び注目を集め始めています。没後101年，まだまだハーンから目を離すことは出来ないようです。

ラフカディオ・ハーン没後１００年記念事業

平成16年１月　ラフカディオ・ハーン没後１００年記念事業富山実行委員会発足（富山県知事公館にて）

平成16年６月13日　小泉八雲令孫時氏，染村氏と共にヘルン文庫訪問
富山八雲会総会，小泉八雲令孫小泉時氏及び金沢市の染村絢子氏による講演。
小泉氏の演題は「身内から見た小泉八雲と没後１００年」，染村氏の演題は「馬場はる子寄贈のヘルン文庫と南日三兄弟」（富山県民会館にて）

平成16年７月24日　松江より八雲会，ヘルン文庫訪問，富山八雲会と交流会を行う

平成16年８月28日　富山八雲会有志参加で，一泊二日で有峰で星を見る会を開催（有峰森林文化村にて）

平成16年７月　「語り継ぎたい八雲の心」作品募集開始

平成16年９月１日より　「アイルランドにハーンの足跡を訪ねる」10日間の旅行を行う

平成16年10月17日～25日まで　企画展「ハーンとローエル」（北日本新聞ギャラリーにて）

平成16年10月23日　アイルランド駐日大使ポドリグ・マーフィ閣下ヘルン文庫ご訪問
アイルランド駐日大使ポドリグ・マーフィ閣下を迎えて，ラフカディオ・ハーン没後１００年記念式典挙行。
「語り継ぎたい八雲の心」応募作品表彰式，
記念講演：小泉凡氏による「小泉八雲の未来へのまなざし」
フォーラム：松井玖美氏，小泉凡氏，平井絢子氏，司会は高成玲子
映画『怪談』より「黒髪」上映（北日本新聞ホールにて）

平成16年12月５日～12日まで　企画展「ハーンとローエル」（立山カルデラ砂防博物館にて）

平成17年１月21日～２月18日　富山県立高岡高校で県内高校巡回展「ハーンとローエル――神々の国に惹かれた知的巨人たちと富山」

以後，２月23日～３月22日　富山県立福岡高校，４月１日～26日富山県立福野高校，５月９日～27日　富山県立大門高校，６月１日～30日　富山県立富山工業高校，７月５日～29日富山県立富山中部高校，８月22日～９月20日　富山県立富山高校，９月26日～10月20日　富山県立新川みどり野高校，10月25日～11月18日富山県立魚津高校，11月22日～12月20日富山県立上市高校で巡回展の予定

平成17年４月中旬　『没後１００年記念誌』刊行予定